

インターハイ 結果報告

(予選) 第1日目

6月11日(日) [於: 筑波大附駒場高校]

1回戦 シード

2回戦 東大和 2 $\left\{ \begin{array}{l} 15-0 \\ 15-1 \end{array} \right\}$ 〇 四商

3回戦 東大和 2 $\left\{ \begin{array}{l} 15-4 \\ 15-6 \end{array} \right\}$ 〇 (私)武蔵

4回戦 東大和 2 $\left\{ \begin{array}{l} 15-5 \\ 15-6 \end{array} \right\}$ 〇 田無工
(コート決勝)

最初から最後まで、うちの
ペースでゲームを運んでい
た。チームの雰囲気もよく、
プレーの面で、余裕が見ら
れた試合であつた。

(予選) 第2日目

6月17日(土) [於: 三井東商業]

1回戦 東大和 0 $\left\{ \begin{array}{l} 1-15 \\ 3-15 \end{array} \right\}$ 2 安田

最後の試合としては少し心残り
のある試合に思えた。1セッ
ト目悪かった。サーブ・レシーブはど
こかえをして、2セット目に望
んでチームの雰囲気を変えてほ
しかった。

インターハイを觀戦して

須江 経則 今回のインターハイの予選は、とてもおちついて見ることができ
た。対戦相手を見て、あまり強いチームが少なかった。せいもあるが、

ほんとにいてもやはり、関東大会へ出たということでは、よほど手をぬかないで
り負けることはないだろうというのが、みんなの意見だった。

武蔵とやったとき、2セット目の前半、やや不調気味だったが、他の試合はほぼ
うちのペースでやったと思う。

ほんとうに強くなったナーと感じた。が、耳生には最後の試合となつた安田との
戦いは、ちょっと心残りがあつた。関東大会へ出場したチームとしては、たいてい
負けたとしても、もう少し頑張ってもらいたかった。アタックもあまり決まら
なかつたようにだし、サーブ・レシーブもだいたいよくできていたようだった。

とても残念だった。でも大きな目標に到達したのだからそれでいいと思う。

先輩方、ほんとうにごくろうさまでした。

宮川 孝司 本大会に都合により出られなかったのも…だから予選について書こうと思う。

本大会に出てから、東大和男子バレー部も、一連の座についた感じがした。

もう予選なら、だいたい勝ちぬける。そんなゆとりが先輩達、2年生、1年生にも見られたと思う。

先輩達も最後の試合になるので、頑張っていた。決勝は田無工業であ、まが、苦しいらしい苦しさもなく、勝った。こうなると気をつけたいこととして、そんなゆとりをもって本大会にのぞくと、そのゆとりが命取りになることにはなるのではいだろうかということである。

幸か不幸か、これから僕達の代であるから、これらの反省を基本において、これからの試合に役立てていきたい。

ひとこと……

3年生にとって最後の試合だ、F1ニターハイも、関東大会に出場したという精神的自信とプレーの面での余裕がかなり見られ、見ている方でも落ち着いて見る事ができ、いままで養ってきたものを次の代にも受けついでいてもらいたい。

6月5日から3週間、世界中の教育実習生として2期生の太谷さんがこられ、授業の準備はどを忙しい中、練習にもたびたび来てくださいました。

2期・太谷 禎克

何でもよいから、ひとこと——と言われたので、今感じるままを少々書いておきたいと思います。

高橋先生が見ていても見ていなくても、自主的に練習を進めていく男子バレー部のメンバーを見て、技術的にも、精神的にも、「本当に強くなってきたな」と感じています。

僕達の時代(2期生)のチームというのは、ちょうど、高橋先生が作、た最初のチームで、今のチームの原型のようだったように思います。もちろん、今のチームは、当時に比べて大変な進歩を上げているわけですが、攻撃のパターンなどはよく似たものがあります。その原型のチームで僕は、セニターブレイヤーをやっていました。僕や煥江(兄)は、東大和の男子バレー部で最初に高橋先生にワッ、ワッをしこまれた、いわば、セニターの元祖であつたわけです。

ここで、自分の宣伝を少ししておきます。僕は、アタックにおいてはコースを打ちわけて、相手ブロッカーをだますことを楽しみにしていました。また、背があまり高くなかった(当時168cm)のでその代わりに、シラフやサーブを得意していました。だいぶ個性の強いタイプの補助アタッカーだったようです。

そこで一つ、今の1・2年生に要請しておきたいことは、“自分のバレー”というものを発見し、みがいていけということです。自分には、自分にしかできないバレーがあるわけで、何よりも自分の個性を生かしてもらいたいと思います。

高橋先生は、選手の使い方をよく知っている人です。だからなおさら1人1人の個性というものが大事になつてくるのです。

この救生の期間中、もっとワラフに出たかったのですが、毎日の授業の準備に追われてしまつて思うにまかせなかつたことが残念です。

これからいよいよ今の1・2年生の時代です。1人1人のもっている力と、全体の連系を大切にして、ますます強靱な男子バレー部を築いていってください。

影ながら、応援していますから。。。。

★ 前号の新入生自己紹介で、太陽君と長戸君の原稿をこちらの手筈で紛失してしまつたので、今回の部報に載せたいと思います。

中学校では、球技大会ほか授業などでバレーボールをやっていたせい、バレーボールに大変興味をもっていました。そこで高校に入ったら、バレー部に入部しようと思っていました。そのことを友達に言ってみたら、「やめた方がいい、背が足りない」とは、きり言われました。現に自分でも、背がもう少し欲しいと思っていましたが、そこはめげずに、一応、仮入部でもしてみることにしました。

——仮入部をしてみると——

とても楽しいクラブだし、大変親切なOB方、それにしても、マミメは先輩方、とても良いクラブに入れたと思っています。

精一杯、先輩方についていこうと思います。

よろしくお願いします。

僕は、中学の時にバレーボールをやっていたんですが、特別に高校に入ったらバレー部に入ろうと決めていたわけではありませんでした。

しかし、どのクラブに入ろうか迷っていたうちに、同じクラスで先に仮入部していた横領君や有藤君の影響も受けて、このクラブに入りました。

練習はきついですけど、がんばります。

みなさんよろしく!!

新チームを結成するにあたって

森山 啓一 今年、みごと関東大会出場を果たした3年生の先輩方も引退し、

よいよ2年、1年による新しいチームが結成されることになった。

そして、今僕達はチームを成り立ていくことのあずかしさ、そして喜びをひしひし

と味わっている。とにかく今はみんな初心にもどり、みんなが注意し合い、みんなが

このチームを作っていく。それにはまずみんな積極的になることが必要だと思う。

今まで、僕達は3年生につれてきていただけ、中心になることがなかった。しかし、今

度は違う。僕達が中心になり、僕達がひっばっていかなければならぬ。そこで積極さが必要になってくる。もうひとつ、今自分が置かれている立場をよく考えるということだ。現在3年生の先輩方がつかんだ関東大会出場の栄光をむねにしていけない。むねにしないためには、また僕達が関東大会出場しなければならない。そして、先輩方が果たせなかった2回戦進出を果たさなければならぬ。今述べたことを頭に置いて練習にとりくんでももらいたい。そうすれば、いいかげんは練習は出来ないはずだ。前にも述べたが、とにかく、練習中は、1・2年関係なくみんなが注意し合い、みんながこのチームを作りあげていこう。

最後に、OB及び3年生の諸先輩方、暇がございましたら、練習に顔を出し、ご指導を願いたいと思いますので、よろしくお願いします。

★ 住所変更のお知らせ・・・

4期生 武田 亮一先輩

新宿区高田馬場 2-5-27 戸塚寮

★ あとがき・・・

関東大会・インターハイも終り、一段落し、3年生が引退して、新部長の森山君をはじめとして、部員一同新たな気持ちで基礎から練習にはげんでいます。

私達も、3年生を手本において、自分達の目標を達成出来るよう、これから夏の合宿、試合等にむけて、より一層努力していきたいと思ひます。